

地域で錦を織り続ける

～社員とともにお客様の繁栄を考え地域に貢献～



立石 克昭 氏

タテイシ広美社 代表取締役
広島県中小企業家同友会 代表理事

看板業を主体に発光ダイオード(LED)を使った電光掲示板などを製造・販売しています。現在はものづくり補助金の支援を受け、防災情報システムの開発を進めています。このシス

テムはバッテリーと太陽光発電を組み合わせ、ほとんど電力を消費しないのが特長。画面には電子ペーパーを採用し、災害時など電気が止まった状態でも気象庁からの情報を表示できる仕組みです。来年4月の完成を予定しています。

雇用の創出 活性化に

24歳で創業して以来、府中市で会社を営んでいます。周りからは、「都会に出た方が仕事も増えるのでは」と言われます。でも、ここは私の生まれ故郷です。企業がどんどん減っていく中、1人でも2人でも多くの若い人に働く場所をつくってやりたい。雇用の創出こそが、地域の活性化につながると信じています。

故郷に錦を飾るという言葉があります。都会で成功した人が、地元寄付などをする。素晴らしいことです。ただ私は、故郷で錦を織り続ける(地域に根差した経営をする)会社や経営者の方がもっと素晴らしいと思っています。日本の中小企業の多くがそれぞれの地域で錦を織り続けています。

小さな会社ですが、キラリと光る企業づくりが私の目標です。新規事業にはハードルがたくさんありますが、成し遂げるには経営者の熱い思いが必要です。これからも他の中小企業の皆さんと一緒に、地域を元気にするために頑張っていきます。